

生駒市医療介護連携ネットワーク協議会
令和元年度 第4回 認知症対策部会 会議録

開催日時	令和2年2月21日(金) 午後2時30分～午後3時55分
開催場所	生駒メディカルセンター 研修室
出席者 (委員)	山上部会長、中溝副部会長、石井委員、徐委員、川田委員、古田委員、湯川委員、川端委員、中田委員、松村委員、竹田委員、田中委員
事務局	地域包括ケア推進課 後藤課長、渋谷主幹、森口主任、田村主任
傍聴	なし
案件	(1) 生駒市認知症初期集中支援チーム等の実績報告について (2) 令和元年度認知症対策部会活動報告書について (3) 次年度の計画について (4) その他
資料	令和元年度 第1回認知症対策部会 会議次第 資料1 認知症初期集中支援事業活動事例 資料2 認知症対策部会令和元年度活動報告書(案) 資料3 認知症対策部会令和2年度スケジュール(案) 資料4 事前アンケートとりまとめ
議 事 の 経 過	
発言者	発言内容
事務局	1 開会
委員	2 案件 案件(1) 生駒市認知症初期集中支援チーム等の実績報告について (資料1に基づき説明) 【1件目】 未返送者実態把握事業とはどんな事業か。
事務局	市内75歳以上の方(要介護・要支援認定者を除く。)に基本チェックリストを郵送。返送のない方に対し、優先度の高い方から包括が訪問しています。
部会長	1包括当たり何人ぐらい訪問していますか。
事務局	市内で200人ほどですので。各包括30件ちょっと。3回まで訪問していただいています。
部会長	なぜ入院になったのですか。
事務局	内科的な疾患が潜んでいる恐れがあるとともに、幻聴等精神的な疾患の恐れも

	あったことから、検査入院となりました。
部会長	今後チームで関わっていくということですね。
事務局	認定調査、診断結果を確認、介護保険サービスの調整等を実施する予定です。今回、在宅生活が可能なのかが判断できなかったことから、今後そこを探っていくこととなります。
委員	チームはどこまで介入するのですか。
事務局	入院に限らず、適切なサービス等に繋がった時点でケアマネジメントに移行するということになるため、集中的に整理をするというイメージです。ただ、かなりの労力、時間、人員を割くため、稼動数に限りがあるというのが現状です。通常のケアマネジメント、地域包括支援センターによる包括的・継続的ケアマネジメントを実施してもサービスに繋がらないという場合は、手法の一つとして利用を検討していただければと考えています。
部会長	<p>【2件目】</p> <p>この方もこれから関わっていくこととなりますね。誰からの連絡で繋がりましたか。</p>
委員	元々福祉関係に幅広い人脈をもたれていた方。そのつながりで包括に連絡が入りました。
部会長	内科の先生の話は聞かれるのですか。
事務局	拒まず、採血もされます。独語等も増え、近所からも不安の声も挙がっていることから、今初期集中で関わることにしました。
委員	認知症の人を地域に繋ぐのが難しい。包括、市役所どちらに相談すれば良いのか。
事務局	認知症の何を相談されるかによって相談先が変わりますが、地域でのことであれば地域包括支援センターとなります。ただ、認定取れば要介護になる、というような人の場合は、居宅の人に連絡していただいた方が迅速にサービスに繋がると思います。
委員	背景の分からない人が受診に来られ、帰っていかれる場合等にどこに相談すれば良いかが悩むところです。
委員	地域包括支援センターに相談いただく場合が多いと思います。
事務局	悩む場合は、市に連絡いただければ、整理し、包括に繋がります。
	<p>案件(2) 令和元年度認知症対策部会活動報告書について (資料2に基づき説明)</p>

	<p>今回の分も反映していただくこととなりますが、委員の皆様、ご意見ありましたら。</p> <p>これはいつまでに内容を固めるものですか。</p> <p>5月16日のネットワーク協議会において報告予定としています。今回の内容を追記したものを改めて各委員に送付し、ご確認いただきたいと考えている。</p> <p>メールでのやり取りとなりますね。事務局で作成お願いします。</p> <p>案件(3) 次年度の計画について (資料3・4に基づき説明)</p>
事務局	
部会長	<p>来年度の活動です。事務局から説明ありますように、5つの部会の役割のどこにポイントを置くかですが、ご意見等ありますでしょうか。</p>
部会長	<p>資料にありますキャラバンメイトとはどんなものですか。</p>
事務局	<p>認知症サポーター養成講座受講後、ステップアップ研修を受講された方々。養成講座の講師となることができます。</p>
部会長	<p>研修はどれくらいやっていますか。</p>
事務局	<p>県が年2回ほど実施。市内でも年間10人くらい養成されています。包括、介護事業所職員等が多い。市民となると少ない。</p>
委員	<p>キャラバンメイトとして動ける人を定期的に募り、アイデアを出していただくような会議ができればと思います。</p>
事務局	<p>キャラバンメイトについては、行政としてもやるべき事項と考えております。</p>
委員	<p>生駒の市民さんは活動されている方ですか。</p>
事務局	<p>平成28年度にキャラバンメイト対象にステップアップ研修を実施しました。引き続き実施していきたいと考えています。</p> <p>そのほかには、認知症支え隊という事業もごさいます。市民力としては高いと考えています。</p> <p>事前アンケートを取りまとめさせていただいたところでは、普及啓発、ケアの向上についてのご意見が多かったかと感じております。</p>
部会長	<p>皆さんからも意見を聞いてみましようか。</p>
委員	<p>職種によって違うと思うが、地域の人と関わる人が多いので、部会としては①普及啓発か③ケアの向上を深めてやっていくのはどうかと思います。</p>
委員	<p>認知症の人を地域で支えるためには、地域の人との協力なしには不可能。市民の方に対する啓発が必要と日々感じている。市民の方から、どう協力したら良いか分からないという声も聞く。実体験、成功事例を見ていただいて、サポート</p>

	<p>方法を知っていただくことができると考えます。</p>
委員	<p>地域力というのか、おせっかいの多い地域は近所の見守りの意識を大事にしていますよね。「ヘルパーが入ったからもう関係ない」とならないような意識を育てられる、そんな地域が良いと思う。認知症があってもいきいきと明るく過ごせる。それが重要かと思います。</p>
委員	<p>普及啓発に力を入れたいと思います。市民の人にとって、まだまだ福祉に関して知らないことがたくさんあると思います。</p> <p>私もキャラバンメイトですが、私の地域は若い世代の人が多く住むまちなので、サポーター養成講座がなかなかできませんでした。そこで、自治会役員を決める総会の前に、毎年養成講座を開くよう、民生委員と協力して実現させました。</p>
委員	<p>ケアパスを最初につくりましたが、やっぱり普及啓発は重要であると考えます。</p> <p>私の事業所では、2ヶ月に1回運営推進会議を開きます。認知症の利用者が多く、地域での協力をお願いする話もしますが、参加者によっては「責任は誰が取るの？」というような話になりがち。</p> <p>ちょっとした見守りから声を上げてもらえるような地域のつながりが必要だと思いますが、一般の人はそれを知る術がない。より多くの人に知ってもらえるような普及啓発の方法はないかと日々考えています。</p>
委員	<p>認知症については、皆案外知らないと実感しています。</p> <p>実際に認知症の人を抱えているご家族も、分かっていないことも。関わっている人でもそうなので、関わりがない人たちは全然知らないんだろうな、と実感しているところ。その人を支えるためには、まずは関心を持っていただくことが何より大事と考えます。</p> <p>現在、薬物乱用防止教室で小学生に関わっているのですが、子どもたちに啓発するとうことは非常に効果があります。奈良県は日本一禁煙率の高い県。子どもたちに教育してきたことが効果として現れている。</p> <p>認知症に関しても、子どもたちへの啓発をもう少し力を入れることで変わってくると思う。子どもたちから地域への広がりも期待できます。</p>
委員	<p>啓発の難しさを感じている。市民講座や多職種研修、参加されている人はそもそも意識の高い方。ターゲットを絞っていかないと考えます。</p> <p>広報等で案内しても来ない人、来られない人等を対象に行った方が良いと思う。</p> <p>具体的にどうしたら良いのか、ということ聞かれることが多い。</p> <p>もし私が認知症になった場合、生駒市ではどうしてもらって、どうなっていくのか、ということがわかっただけではないと思う。上手くターゲットを絞って伝えていければと思います。具体的にどうすれば良いのかは難しいですが。</p>
部会長	<p>子ども向けのサポーター養成講座は開催できていますか。</p>
事務局	<p>最近は中学校での開催は少ないのですが、現在は小学校対象が増えてきてお</p>

	<p>り、今年度6校開催できています。 今は学習指導要領にも入っているので、全校で実施していただきたいところです。</p>
委員	<p>小学生は素直。養成講座実施後のアンケートでも非常に優しい意見を書いています。</p>
委員	<p>認知症講座を実施しても参加される人はだいたい70～80代で、30～40代が圧倒的に少ない。 ご意見にあるように、若い世代に関心を持ってもらう。子育て世代が関心のあることをきっかけに繋げていくことも考える必要があるかと。</p>
委員	<p>子育てが終わったら次は介護。子育て一生懸命のときはなかなか子育て以外のことに興味が行きにくい。 興味があるものには、託児がしっかりしていたら行こうと思うかもしれないが、わざわざ人に預けてまでは参加しないと思う。 次に実際に活動してもらう必要があるのはその世代の人ではあるが。</p>
委員	<p>自分の住んでいる地域には精神科の病院がある。 子育て世代の親は緊急メール等で怪しい人が出たら通報するなどに慣れている。少し言動の変な人をみたらすぐに警察に通報する。でも子供たちは「あの人は独り言をいって歩いているだけ。危害を加える人ではない」などとよく知っている。 大人はそういったことを知らないので、危険人物扱いすることもある。子どもの方が素晴らしい。子どもは柔軟で良くわかっていると思います。大人の行動は、自分の子どもを守るために必要ではあると思いますが。</p>
委員	<p>子どもへの啓発は、帰って親に伝わるということも期待できます。</p>
委員	<p>薬物乱用も小学校6年間の中で、受講する学年を決めている。認知症の講座もカリキュラムに取り入れることができれば。たった1時間のこと。 認知症は今後増えていく。将来受け入れていかなければいけないものとして教育の中に入れていただければと考えている。</p>
委員	<p>参観日にできればいいですね。</p>
委員	<p>子どもは認知症の人にもやさしい。子どものうちに普及啓発できれば。</p>
委員	<p>子どもたちにとって怖い人じゃない、力を貸すべき人たち。机上だけでなく、認知症の人と触れ合う時間があるからこそ次のステップにいける気がします。 まずは子どもたちも認知症の人と一緒に集えるようなサロン、認知症カフェで時間を共有できるような場が取れたらと思います。 自分の家族にいなければ触れ合う機会はほとんどない。認知症の人がどんな人なのか、わからないと思う。</p>
事務局	<p>娘が私立の保育園に通っていますが、同一法人内の高齢者施設で高齢者と触れ合う機会があります。小さいときからそういった多年齢層との交流が地域で</p>

委員	<p>できれば良いですね。</p> <p>職業体験は非常に良い体験になる。ただ、生徒自身が希望する職業を体験しています。皆が福祉の部門に行ければよいのですが、コンビニ等を希望される生徒も多いと聞きます。</p>
委員	<p>子育て世代が参加するイベントで啓発できれば。</p>
委員	<p>施設でなく、地域で生活されている独居の認知症の人。いろんな制約があるでしょうが、そういった人と触れ合う機会ができれば良いですね。</p>
部会長	<p>普及啓発がまだまだ不十分、来年度そこに取組んでいけばどうか、とのご意見を多くいただきました。</p> <p>若い世代を対象を絞って啓発活動をやっていくとのことご意見が多いと思いますが、今日は具体的に決めることができないですね。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。現在市役所内でも庁内連携を進めています。</p> <p>子ども向けに認知症の講演会をしても集まらないと思うのですが、例えば夏休みに子ども向け映画会をやっているイベントに併せて啓発をする、妊婦健診で待っているところで啓発するなど、他課の事業との連携を通しての啓発も可能かと考えております。</p> <p>今日多くご意見をいただきました。この場で詳細を決めていただかなくとも、来年度、認知症部会としまして、若い世代向けの普及啓発を考えていく、という方針を決めていただけたと考えております。</p> <p>案件(4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回日程について ・令和元年度まとめの言葉 <ul style="list-style-type: none"> ⇒・認知症の人でも、医療機関を単独で受診された場合、受け答えがまともで、話がちゃんとできれば、礼節のある人に見える。家族が来て話を聞いたら、全然違う人もいる。 ・まだ家族から話が聞ける人であれば良いが、家族がいない人やこれまでの繋がりのない人は全然状態が分からない。 ・そういう人にどう気づいていくか。行政だけではなかなか難しい。先ほどの話にもあったように、小学校や自治会等、地域の方にも関わっていただき、気づいていただく必要があると感じている。そのためにも啓発が大事。 <p>5 閉会</p>